

令和 3 年度

**事業の課題に対する局の
取組み状況について**

大阪市における在宅医療・介護連携推進事業のめざすべき将来像

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、多職種協働により在宅医療と介護を一体的に提供できる体制が構築されている。

めざすべき将来像に向けての局の課題

1. 事業の進捗管理
2. 広域連携の仕組みづくり
3. 区役所・相談支援室に対する積極的支援

課題 1 事業の進捗管理

課題 1 に対する今年度の取組み

(1) 評価指標での進捗管理

- ・大阪市在宅医療・介護連携推進事業に関する医療施設等アンケート調査を実施 ➡ 資料 4 にて報告

(2) 区役所・相談支援室への取組み調査からみる事業の進捗管理 ➡ 資料 2 にて報告

課題 2 広域連携の仕組みづくり

課題 2 に対する今年度の取組み

さらなる広域連携へつなげられるよう、基本保健医療圏から大阪市域へ対象者を広げた研修会の開催を検討

多職種研修会の開催

【日 時】 令和3年10月22日（金） 午後2時30分～4時30分

【内 容】 『認知症の方と家族の意思決定』

講師：同志社女子大学 看護学部 杉本百合子准教授

【場 所】 北区民センター

実施済



多職種研修会 アンケート結果

【参加者】 147名

【回収数】 139名（回収率：94.6%）

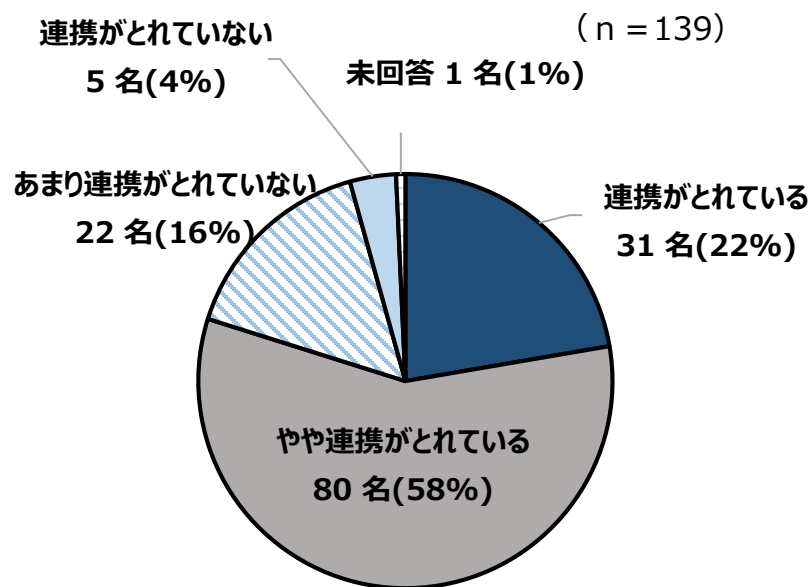
1) 所属

病院	診療所・クリニック	歯科医院	薬局	訪問看護ステーション	地域包括支援センター	居宅介護支援事業所	訪問介護事業所等	区役所	相談支援室	その他	計
13 (9.4%)	2 (1.4%)	4 (2.9%)	25 (18%)	1 (0.7%)	43 (30.9%)	19 (13.7%)	0 (0%)	6 (4.3%)	19 (13.7%)	7 (5.0%)	139 (100%)

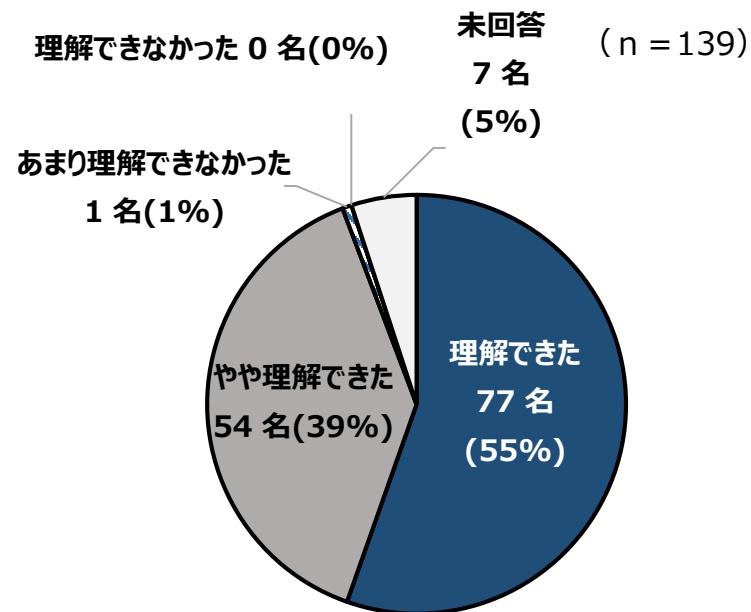
2) 職種

医師	歯科医師	薬剤師	保健師	看護師	居宅介護支援専門員	社会福祉士	介護福祉士	事務職	その他	計
3 (2.2%)	4 (2.9%)	25 (18%)	10 (7.1%)	19 (13.7%)	34 (24.5%)	26 (18.7%)	4 (2.9%)	4 (2.9%)	10 (7.1%)	139 (100%)

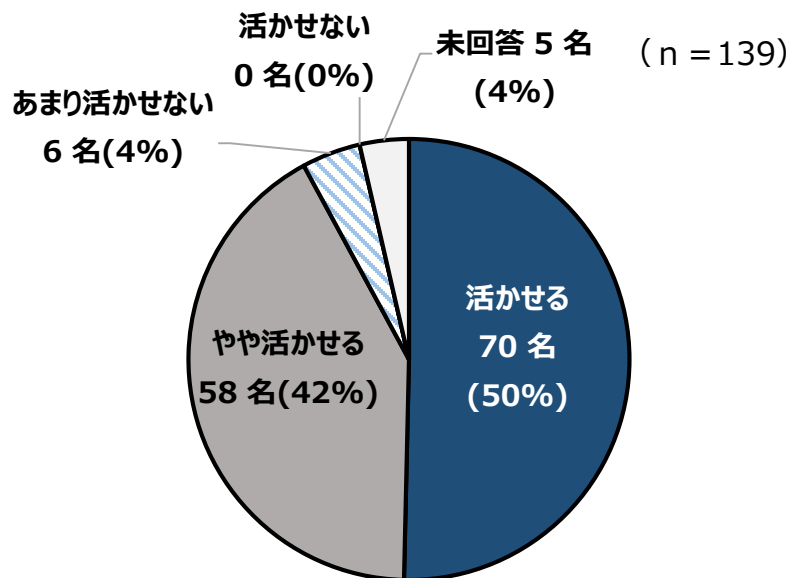
3) 他職種との連携について



4) 研修内容の理解について



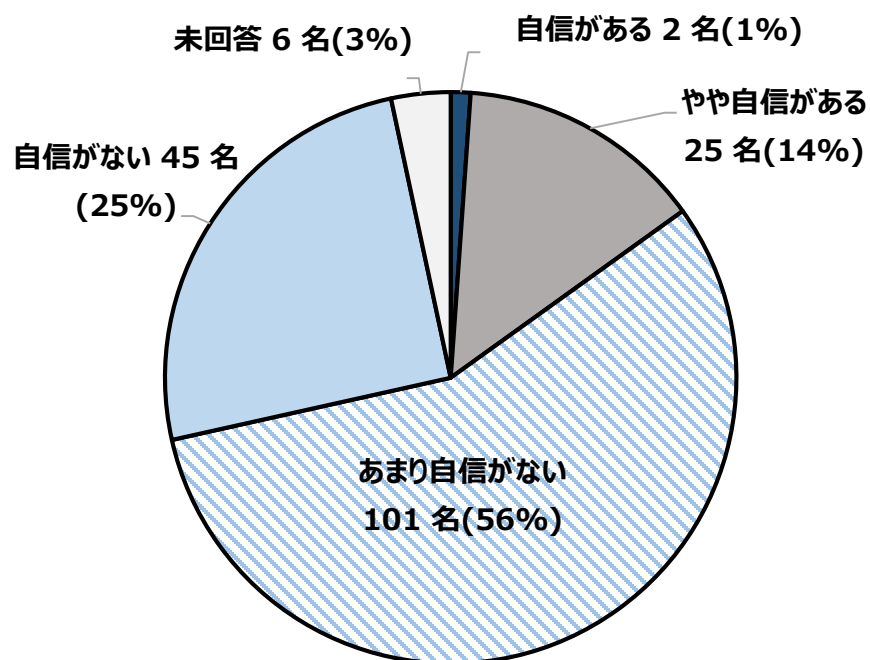
5) 今後の業務にどの程度活かせるか



6) 意思決定支援について

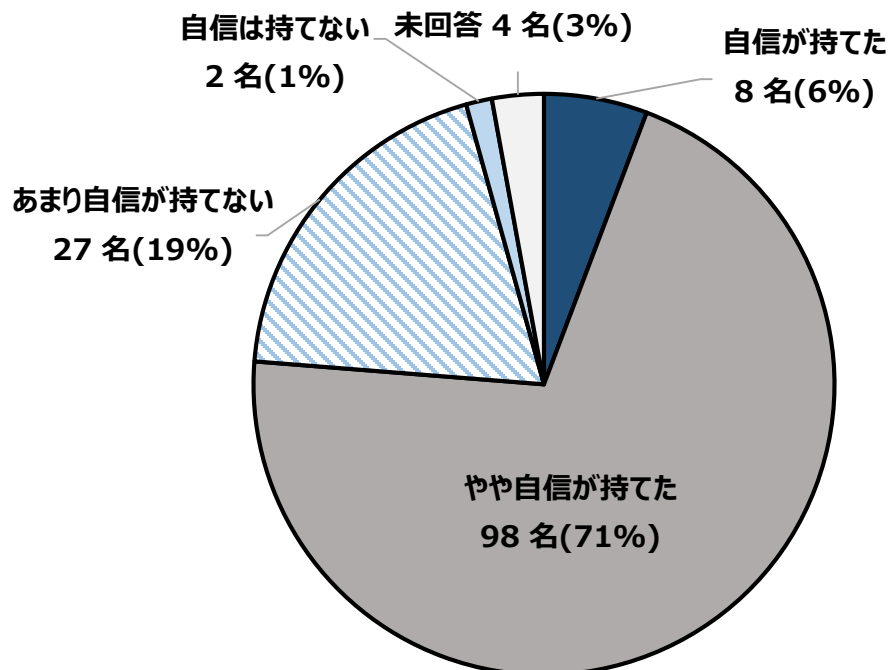
【研修申し込み時事前アンケート】

(n = 149)



【研修後アンケート】

(n = 139)



意思決定支援に対して、

事前アンケートでは、「**自信がある**」・「**やや自信がある**」と回答した割合が**15%**



研修後のアンケートでは、「**自信がもてた**」・「**やや自信がもてた**」と回答した割合が**77%**

自由記載

【研修会の内容について】

- ・難しいことだと思っていたが、先生の話聞き認知症の方の意思決定が理解できたように思います。
- ・認知症患者と患者家族にどのように向き合えばよいかすごく勉強になりました。
- ・認知症患者の意思が尊重されるには患者家族の理解・家族支援も重要でないかと思った。
- ・意思決定は本当に大切なことなので、これからも気をつけていきたい。
- ・認知症の対応は理解できたが、その意志の評価は難しい。
- ・当事者の背景を知ってより良い対応を心掛けていますが、講演であった患者家族の話を鵜呑みにすることも多かったので、もう少し認知症患者本人の話を聞く、もしくは寄り添いたいと思った。
- ・認知症がテーマの研修は多くありますが、具体的な対応方法を知ると実際に活かそうと強く思える。
- ・高齢化社会といわれる中で多くの方に知ってもらうためにも現場の生の声をもっと伝えるべきだと思う。

【今後の希望するテーマ】

- ・ACP（人生会議）について
- ・緩和ケアについて
- ・成年後見人制度、権利擁護について
- ・事例を用いた意思決定支援や看取りに対する支援について（グループワーク含む）
- ・多職種との上手な連携の仕方について

来年度にむけて

今年度はコロナ禍での研修会の開催であったためグループワークを行うことが難しく、講義を聴講する形式になった。

来年度はコロナの感染状況にもよるが、グループワークを取り入れ多職種の役割について相互理解が深まるような研修会の開催を検討したい。

課題 3 に対する今年度の取組み

(1) 区役所への支援

①『在宅医療・介護連携推進事業 区新任担当者等説明会』の実施 ➡ 前回報告済

②区役所への個別支援

(人事異動に伴う区役所担当者の交代、取組み調査より支援の対象を検討)

(2) 相談支援室への支援

①新任コーディネーターへの個別支援

②新任コーディネーター向け『コーディネーター連絡会』開催

(3) 区役所・コーディネーターのスキルアップと連携

『区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター合同研修会』の開催

① 区役所への支援

継続実施中

【区役所への個別支援】

令和2年度 of 取組み調査より支援が必要な区を抽出し、6月より支援開始
担当者を訪問して、事業および昨年度の区役所の取組み状況について説明
以降、適宜取組み状況を確認し、支援を継続

➡ 区役所と受託法人が連携し、顔の見える関係づくりから取組みを開始

【新任コーディネーターへの個別支援】

- ・経験の浅いコーディネーターが配置されている区に対して、面談や電話にて支援
例) 区役所との連携が難しい・・・健康局より区役所担当者に連絡し、コーディネーターと区役所がどのようにしたら連携していきやすいかを一緒に検討
報告書類を確認し、対応した事例について振り返りを実施

【新任コーディネーター向け連絡会の開催】

【第3回】 令和3年11月22日（月）

参加者：新人コーディネーター 7名（1年目 4名、2年目 3名）

ファシリテーター 4名

内 容：基礎から学ぶACP

ね ら い：①コーディネーターがACPについて正しい知識を持つ

②ACPへの取組みについて理解し、他者に説明することができるようになる

アンケート結果

【今後の業務に活用できそうか】

活かせる	やや活かせる	あまり活かせない	活かせない
8 (72.7%)	3 (27.3%)	0 (0%)	0 (0%)

自由記載

【研修会の内容について】

- ・いろいろな価値観を受け止める力や、普段の会話の中から気持ちを引き出していくコミュニケーション力をつけていきたい。
- ・A C Pを話し合う「タイミング」について、理解ができた。
- ・他区の状況がわかってよかった。
- ・他区の取組み、コーディネーターの姿勢などの話を聞くことができるので、とても勉強になります。
- ・講義や研修の内容を、区での活動に役立てていきたい。

【今後の希望するテーマ】

- ・もしバナゲームを使った研修をして欲しい。
- ・実際の事例や、コーディネーターの実務報告を聞きたい。
- ・在宅医療の算定について。
- ・医療情報を提供する時に知っておいたほうがいいこと。
- ・8050問題について。

③ 区役所及び相談支援室への研修会の開催

区役所実務者、在宅医療・介護連携支援コーディネーター 第1回合同研修会

【日 時】 令和3年11月5日（金） 午後2時～4時30分

【内 容】 『地域診断 ～地域の強みを見える化しよう！～』

講師：大阪府立大学 看護学部 都筑千里教授

【場 所】 浪速区民センター

実施済

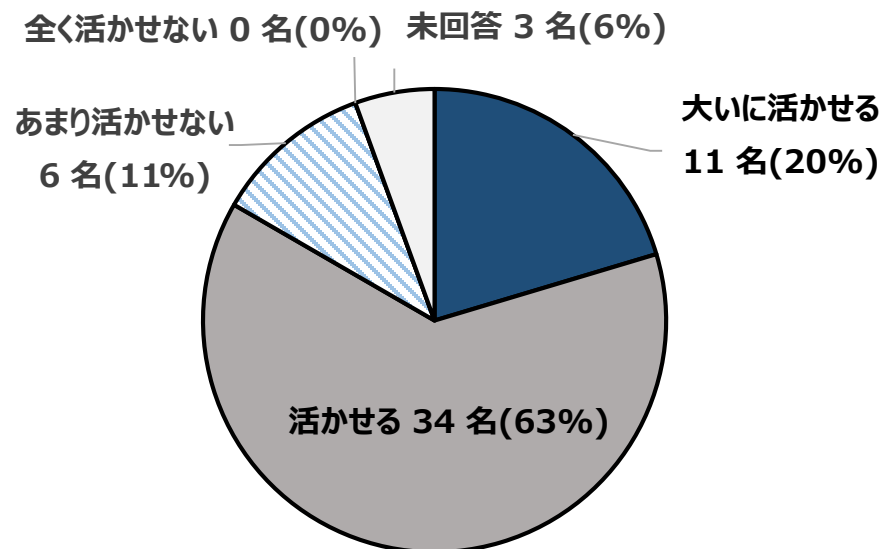


第1回 合同研修会 アンケート結果

【参加者】 区役所職員 26名 コーディネーター 29名

【回収数】 区役所職員 26名 コーディネーター 28名 (回収率：98.2%)

【今後の事業に活用できるか】



【自由記載】

【区職員】

【研修会の内容について】

- ・いろいろなことにアンテナをはること、疑問点や気づきに対してデータを集めて地域診断を実施していきたい。
- ・情報、データの分析は事業を行う上で、基本的で大事なことであったと改めてわかった。
- ・必要なデータを意図をもって収集しようと思った。
- ・今までデータを漠然と利用してきたが、気づきと目的を持つことで有効的に利用できることがわかった。
- ・打ち合わせなどを通じて顔の見える関係を構築し、地域の課題とその解消について検討していきたい。

- ・在宅医療介護連携推進事業を難しく考えすぎていたような気がした。各団体とのコミュニケーションについて、もっとリラックスしてできるよう思えた。
- ・中長期的な取り組みが必要。

【今後の研修会への要望】

- ・既存のデータから将来推計値等を求める方法
- ・具体的な事例を交えた研修
- ・今回のように、グループワークを取り入れて欲しい

【コーディネーター】

【研修会の内容について】

- ・データをどう活用するかで悩むより、日常のアンテナを張り、気づきから入ることで有効に利用でき、そこから発展させることができると感じることができた。
- ・地域診断はデータを集めるだけではなく、それを土台に話し合える関係機関や地域住民との関係性が重要であると感じた。
- ・関係機関と情報交換をしながら関係性を深める。
- ・関係づくり、その後の資源の把握が大切だと思った。
- ・地域住民と一緒に地域診断を共有する場を作っていきたい。
- ・地域の強みと弱みを考える事、アセスメントをしっかりと根拠を示していかないと関係機関を動かすことが難しいことがわかった。

【今後の研修会への要望】

- ・データの集計や分析の方法
- ・ケース発表(困難事例)
- ・グループワーク、ワールドカフェ、ワークショップの進め方
- ・多職種との連携の方法